神田さん，“Born astronomer”

野　尻　抱　影

5 月 20 日，日本天文学会から，結構な神田記念賞とともに鄭重な表彰状をいただき，身にあまる光栄に感動した．元来が血の気の多い sportive な浜っ子の流れで，本を書くのも自分が楽しいからである．それが読者を啓発するに値いしたと表彰していただいたのには恐縮するばかりだが，昔から宿縁浅からぬ神田さんのお名を冠する賞であり，かつ白銅大メダルの富士と渾天儀にカミシモ姿の江戸天文方を配した意匠は北斉の富嶽百景の一つらしいが，卓抜で，つくづく感嘆したからである．

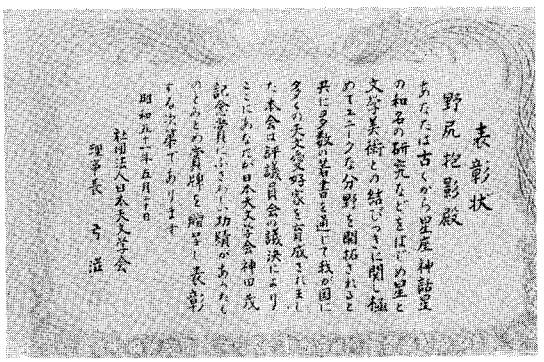
さて，以下に神田さんの思い出を書いてみる．

氏は明治の末年に麻布中学を卒業され，私は大正元年にそこの教師となった．4 年生に令弟の神田清君がいた．後の流星学者で著書も 1 冊あり，惜しくも前満州国で早逝したが，英語担任であるのにリーダーなどはそっちのけで，黒板に Orion の図などを書き，星の美を説く風変りな教師のことは自然に令兄にも伝わっていたに違いない．

私は，神田さんを“born astronomer”と名づけたい．西欧には稀れにあるが，日本では氏以外には発見できないと信ずる．私は 1910 年 1 月 23 日の A 彗星を南アルプスの空に見た一人だが，後にその思い出を書くのに神田さんから借りた資料は，当時の新聞のスクラップと丹念なメモで，麻布の中学生の仕事としては驚くほかはなかった．だから，氏の天文学愛好は天賦に由るもので，すでに将来の氏を約束していた稀有の一例である．

神田さんとの初対面は大地震のあと，麹町研究社の古い板壁の応接室であった．第一印象は古い皮バンドの尾をだらりとぶら下げていたことで，これが天文台の代表かと，かつ驚き，かつ敬意に打たれた．

用件は，天文月報の表紙に何か図案はないかということで，これは見当ちがいだった．そのあと何の話になったか？　たぶん，私は清君の思い出に触れ，神田さんは私が始めていた星の和名漁りを励まされたのではないかと思う．温厚で言葉少ないのも兄弟似だった．



表彰状

野尻抱影殿

あなたは古くから星座神話星の和名の研究などをはじめ星と文学美術との結びつきに関し極めてユニークな分野を開拓されると共に多数の著書を通して我が国に多くの天文愛好家を育成されました本会は評議員会の議決によりここにあなたの日本天文学会神田茂記念賞にふさわしい功績があったものとみとめ賞牌を贈呈し表彰する次第であります

昭和九十年五月二十日

社団法人日本天文学会

理事長　寺　澤

私の足跡としてまず残るのは星の和名集成だが，これには新村　出先生は別として，神田さんの支持も大きかった．まだ「日本の星」(昭和 11) が本になる前に勧められて，天文月報に数回寄稿した．小惑星に和名をつけるよう依頼されて辞退したが，ミタカとかタマとか，それに発見者のイニシアルをつないだ語呂合せめいた名を添記したのを記憶している．

神田さんが私を蔭ながら庇護して下さったのは Pluto の和名，冥王星が採用されたときである．提案から 10 年後 (昭和 10) の天文用語統一会議で，上智大学学長土橋博士が Pluto の原意を挙げて反対された．すると神田さんから同氏が引用したウェブスター大辞典のコピーを送られた．その後半の氏が引用されなかった部分に私の主張に最も有力な Pluto の常識的解釈があった．その結果，冥王星がパッスした．神田さんは裁決を報告して下さったが，何とも附言されていなかった．これが私心をはさまぬ学者の態度だろうと思う．

事，学的探究となると，むろん学者として極めて慎重だった．法隆寺に残っている落書の“肺”で，私は古典の“市”づくりの字をあれこれと詮索して私見を天文総報へ送ったところ，神田さんの目を通さずに記事にしようとした．それを取り上げて保留されたが，一，二度手紙を下さっただけで葬られた．

終戦後，諏訪の天文同好会から，神田さんとともに招かれたとき，私が放談で観測を力説すると，「ほかに理論がある」と席から声をかけられたのを忘れない．

神田さんの深い学徳と真摯篤実な風格を敬慕する若人たちで組織しているのが日本天文研究会である．会長いまさぬ現在も，上野科学博物館の毎月の例会には数十名の篤学な会員が研究を発表し合っている．今月は 160 回で，将来とも連綿とつづいて師の遺徳を伝えることは言うまでもない．

これについて私が度々思いだすのは，前記諏訪の講演会のとき，宿にした温泉旅館で，家業は床屋さんだが，新星の発見では“golden eagle”の眼の持主——五味一明君が，愛弟子の A1 として先生の前にかしこまり，短躯の膝を丸まっちく折って聴き入っていた師弟の美しい情景であった．

五味君も神田賞を授けられた．この白銅大メダルはとかげ座新星の発見でアメリカから贈られた金メダルと双つ並び，床屋さんの床の間に輝いているに違いない．